

# 春日井リニアを問う会ニュース

発行 春日井リニアを問う会  
2016年8月7日 発行 9号  
事務局 川本正彦 0568-83-9261  
春日井市関田町3丁目117番地1号

## ストップ・リニア！新幹線訴訟裁判 第1回口頭弁論が行われる。

9月23日14時30分

東京地裁大法廷(103号法廷)にて

15時30分～16時 記者会見

16時 議員会館で院内集会

訴状は (1)全国新幹線鉄道整備法・鉄道事業法に違反する  
(2)リニア方式による輸送の安全性の疑問、リニア技術の未熟性。  
(3)地震・火災その他の事故発生に対する安全性と危険性、(4)地下水脈の破壊・行き先が決まらない発生土  
(5)リニア工事中の騒音、振動、交通渋滞、地域住民の生活破壊、(6)南アルプスの自然環境破壊、(7)電磁波の  
人体影響・微気圧波、低周波音など環境影響評価法違反一を指摘し、認可の取り消しを求めています。



## 豊丘村小園の住民の7割がリニア残土処分に「反対」署名、 JR東海は白紙に戻した。

JR東海がリニア中央新幹線建設工事の残土を下伊那郡豊丘村神稲伴野区源道地(げんどうじ)の沢筋に埋め立てる計画にたいして、小園地区では4月中旬、地元住民9人が呼び掛け人となって「リニア残土NO!小園の会」(原道治会長)を発足。リニアに対する賛否は問わず、源道地の埋め立て計画を中止させ、村が県に示した埋め立ての候補地の取り下げを村に求める署名を下流の小園地区の全住民(560人余)の約7割に当たる391人の署名を4月下旬までに集めた。候補地から約100メートル下流に小園地区の住宅が立ち並び、住民には地震が発生した際に土砂流出などの被害を招くとの懸念する声があり。4月12日には埋め立ての安全性を考える学習会が同地区で開かれ、署名活動のきっかけとなった。

6月8日(水)JR東海は源道地発生土置場候補地から外すことを、関係団体に報告する。

## リニア反対の市民団体が 土地トラスト運動を行う。

4月22日、リニア中央新幹線の建設に反対する市民団体「リニア新幹線を考える相模原連絡会」(代表 浅賀きみ江)は相模原市緑区鳥屋の車両基地の計画区域内の予定地4千平方メートルの山林に地上権(土地を使用する権利)を設定する「土地トラスト」運動を始めたことを発表。

同会メンバーの男性が所有する土地。男性の了承を得て市内に住む同会メンバー11人が登記し地上権を設定しました。

相模原市緑区内では、住民の土地に測量を強引に進めようとするJR東海の動きが急です。

「リニア新幹線を考える相模原連絡会」は今後、鳥屋地域の住民の皆さんと共に、自然豊かな住環境を保全し、相模原市民、全国民に対して、リニア中央線建設計画の問題点、計画の不当性を訴え、JR東海に対して計画の中止、住民、国民に対する十分な情報公開を要求。国土交通省に対しては、リニア中央新幹線計画の事業認可取り消しを求めています。



# 安倍内閣はリニア新幹線工事、財政投融資で行うと決定

2045年開通とされる大阪開通8年前倒しに財政投融資から3兆円を融資

初年度2016年に1.5兆円 残り1.5兆円を翌年に融資 返済は30年間利子のみ 低金利で貸し出す。

政府は財投債を発行して金融機関が購入、資金を調達してJR東海に融資する。

今後、経済変動で金融利子が増えると差額は国が負担することに。金融機関が購入した財投債、金融事情が悪化すると国が(税金で)買い戻すことも起きる。

リニアはJR東海が全額出資して行うとした前提が崩れ、国家プロジェクトとして国民の税金を使うことに

## 南アに54の重要種 静岡市はリニア工事



静岡新聞 SBS

### 予定地調査を公表(2016/7/28)

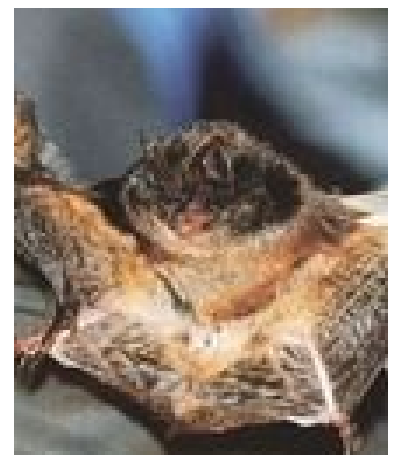
静岡市は27日、ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)

の南アルプスに含まれるJR東海のリニア中央新幹線工事予定地で2015年度に実施した環境調査結果を公表した。動植物調査では、初めて実施した14年度の46種を超える54の重要種を確認し、絶滅危惧種のエゾアカヤマアリなど、JR側の調査で文献上も記録がなかった生物を新たに確認した。

動植物調査はリニア工事で自然環境の改変が予測されるトンネル非常口の予定地周辺などで実施した。確認した54種のうち、JR側が実施した環境影響評価(アセスメント)手続きで現地確認していない種が12種類あった。

絶滅危惧種では、植物がセリ科のホソバハナウド、ラン科のウユシュンラン、鳥類はコサメビタキなどが見つかった。このほか、地域的に孤立し絶滅の恐れがあるとされるチチブコウモリを新たに確認した。

市環境創造課は「今までに確認していない重要種がまだ生息・生育している可能性がある」として調査を続ける方針。環境調査は動植物に加え大気質、騒音、水質など6種類あり、工事用宿舍建設候補地で森林伐採の可能性のある区域周辺の植生調査も初めて実施した。JR東海は市の調査結果公表を受け「市と情報交換し、事業を進めるにあたって活用する」とコメントを発表した。



リニア中央新幹線工事予定地の南アルプスで新たに確認したチチブコウモリ(静岡市提供)

## 名古屋城の南、名城非常口工事説明会が行われた。(6月2日、5日) 工事車輛が通行する、出来町通の住民から苦情や要求が出た。

出来町通は渋滞も多く清水口から東大手の渋滞が絶えず騒音、排気ガスの問題が出ている。

特に拘置所前の交差点は、バスが通るだけで振動がある。夜中にトレーラが走ると震度2程度の振動がある。

事前調査が全然されていない状況で、こうした道路に工事車輛を通行するのはおかしい。

出来町通ルートは回避してほしい。ダンプや工事車輛の待機場所、注意箇所マップを開示してほしい。

運転者を教育すると言っているが実際は守られることはない。重量をチェックしてから走行するのか? 発生土の行く先も決まっていない状況で説明会を開くのはおかしい、決まってから行うべきではないか 説明会を行ったというアリバイ作りではないか。

非常口の隣、名城病院を取り巻くように工事車輛の通行ルートになっている、排気ガスと騒音で環境が悪化して入院患者への影響がある。走行はやめてもらいたい。